

平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-7号)

農林総合研究センター
平成27年7月8日調査

気象経過

- 6月第6半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年より低く（金沢：-1.7℃、輪島：-1.3℃）なった。日照時間は金沢で平年より少なく、輪島では平年よりかなり少なく（金沢：84%、輪島：49%）、降水量は金沢、輪島ともに平年より少なかった（金沢：85%、輪島：76%）。
- 7月第1半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年より低く（金沢：-0.9℃、輪島：-1.0℃）なった。日照時間は金沢で平年より多く、輪島では平年よりかなり多く（金沢：130%、輪島：137%）なり、降水量は金沢で平年並、輪島では平年より少なくなった（金沢：90%、輪島：72%）。
- 7月2日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は高い確立50%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

生育概況等

【生育状況】

- 出穂期
ゆめみづほは近年に比べ2～4日程度、コシヒカリで平年に比べ1～3日程度早まると予想される。

【予想出穂期】

ゆめみづほ 加賀：7月14日～18日（近年より2～4日程度早い）
能登：7月18日～22日（近年より3～5日程度早い）
能登ひかり 能登：7月23日頃（近年並～3日程度早い）
コシヒカリ 加賀：7月25日～28日（平年より2～4日程度早い）
能登：8月2日～4日（平年並～2日程度早い）

- 草丈
コシヒカリは平年比98%と平年並、ゆめみづほは近年比99%と近年並である。
- m²あたり茎数
コシヒカリは、平年比99%（加賀地域100%、能登地域98%）と平年並、ゆめみづほは、近年比101%（加賀地域103%、能登地域96%）と近年並である。

m²あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	478本	(平年比 99%)	前年比 101%)	26.0本/株
	加賀	474本	(平年比 100%)	前年比 105%)	25.7本/株
	能登	485本	(平年比 98%)	前年比 96%)	26.6本/株
ゆめみづほ	県平均	526本	(近年比 101%)	前年比 107%)	30.9本/株
	加賀	533本	(近年比 103%)	前年比 108%)	31.0本/株
	能登	506本	(近年比 96%)	前年比 106%)	30.7本/株

- 葉色
コシヒカリの葉色は、平年及び前年並に低下している。

【病害虫の発生状況】

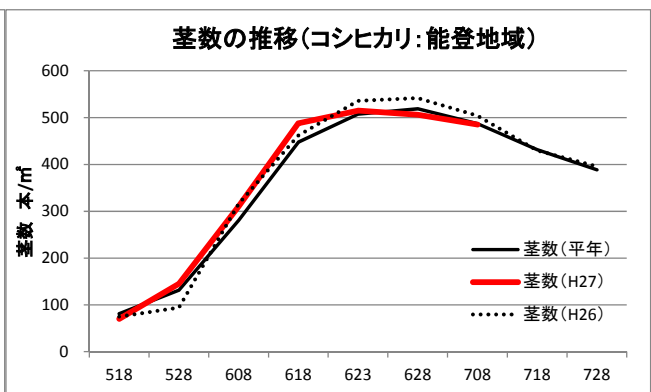
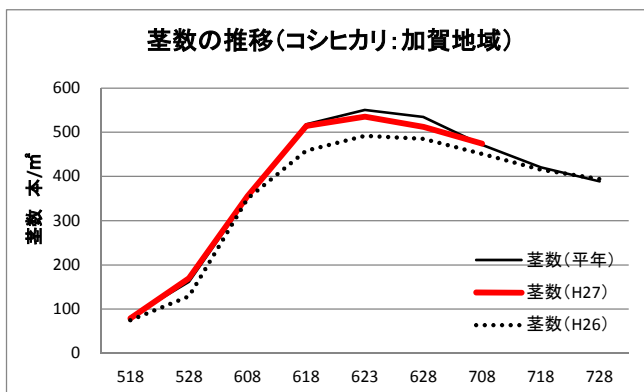
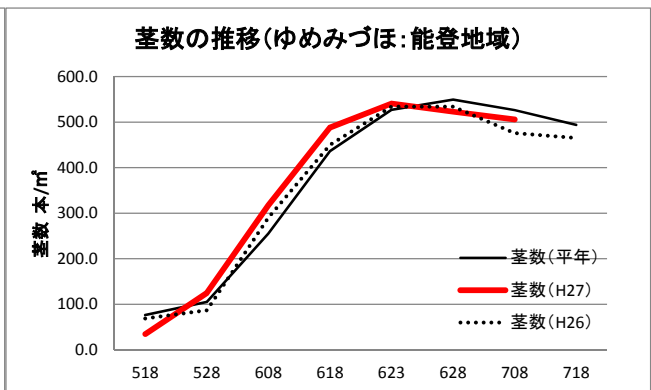
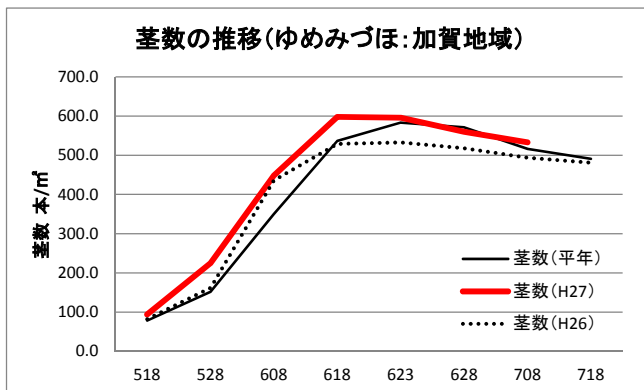
- 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。
[病害虫発生予察注意報第1号（平成27年7月8日付）参照]
- 紋枯病の初発生は平年よりやや早く確認されており、今後の気温の高まりにより進展が予想される。
- 7月6日にいもち病の初発が確認された（平年7月2日）。
- 7月8日にセジロウンカが初確認された。（すくい取り平年値：6月27日）
- イネツトムシの食害が散見されている。

当面の対策

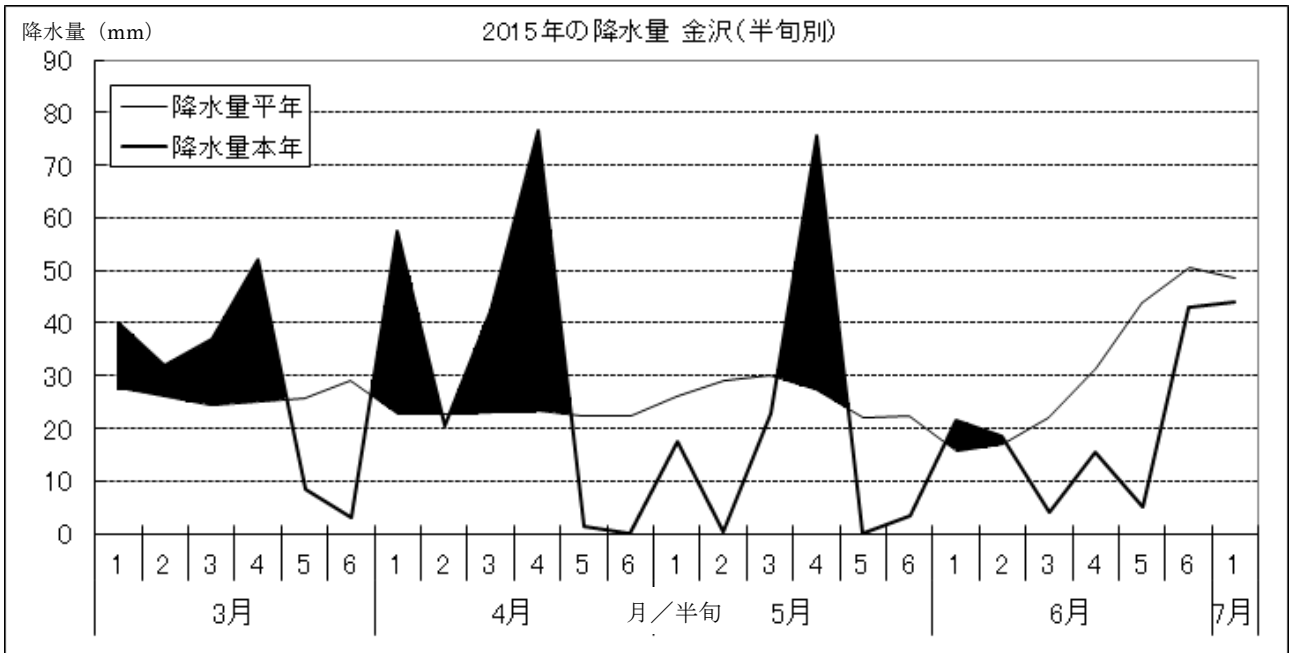
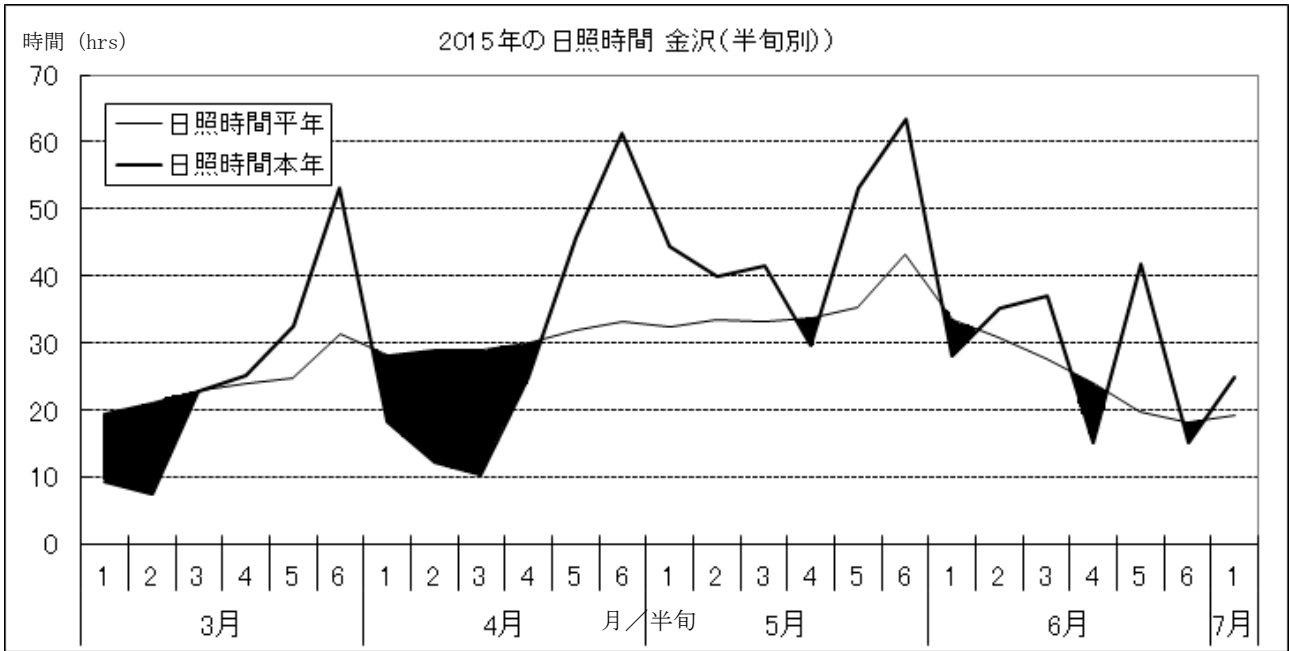
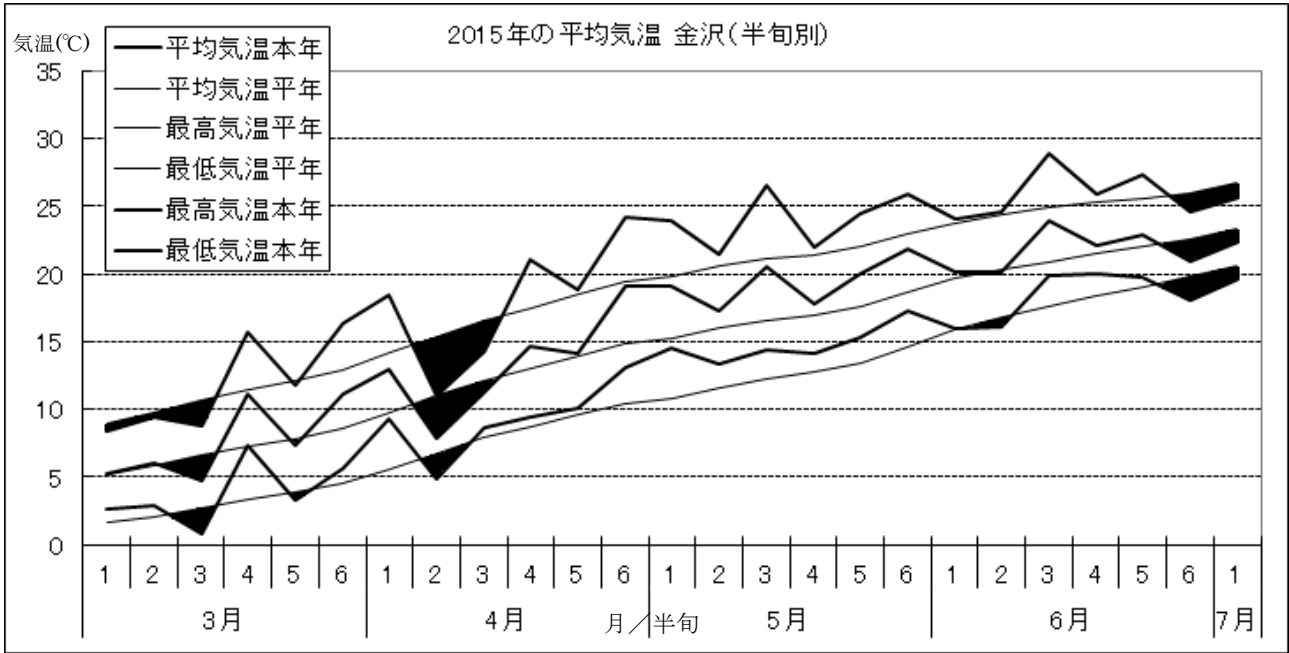
- ゆめみづほの2回目の穂肥施用は葉耳間長±0 cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3 cm（出穂7日前）までに終える。
 - 早生品種は7月14日以降から順次出穂期となるので、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。
なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
 - コシヒカリは幼穂形成期に入っており、5月20日以降の圃場においても中干しを終了し早生品種同様、間断通水による飽水管理とする。
 - 減数分裂期（出穂前15～5日）に19℃以下の低温が予想される場合は、可能な限り深水管理とし、不稔粒の発生防止に努める。
 - コシヒカリの1回目の穂肥施用は、幼穂長15 mm（出穂15～16日前）、葉色板値3.5を確認して、遅れずに施用する。但し、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
 - いもち病の常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。また、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。
 - 紋枯病の発生はやや多と予想されており、発生を確認した場合、直ちに防除を実施する。
 - 稻こうじ病の防除については、出穂15～10日前に行うこと。
 - 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は、本田防除の直前に行う。
- ※本田カメムシ防除の留意点
7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。
8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。

＜参考：地域別茎数の推移＞

- ゆめみづほの最高分げつ期は、平年及び前年よりも早くなった。現在の茎数は平年及び前年並となっている。
- コシヒカリの最高分げつ期は、平年並で前年よりやや早くなった。現在の茎数は平年及び前年並となっている。

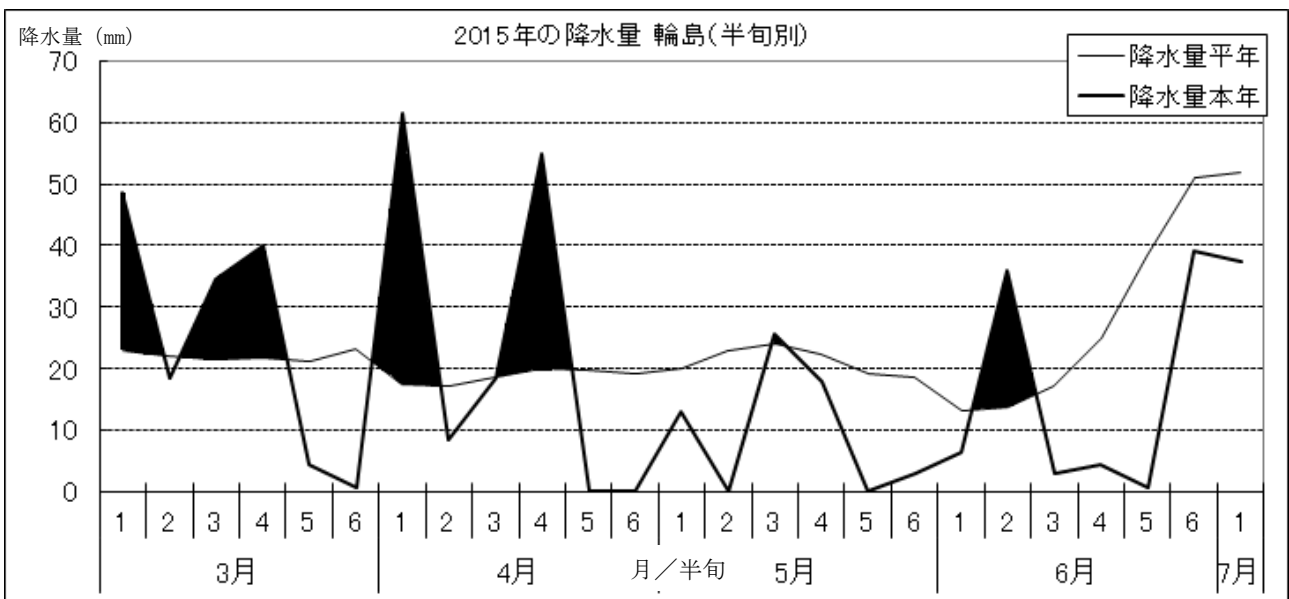
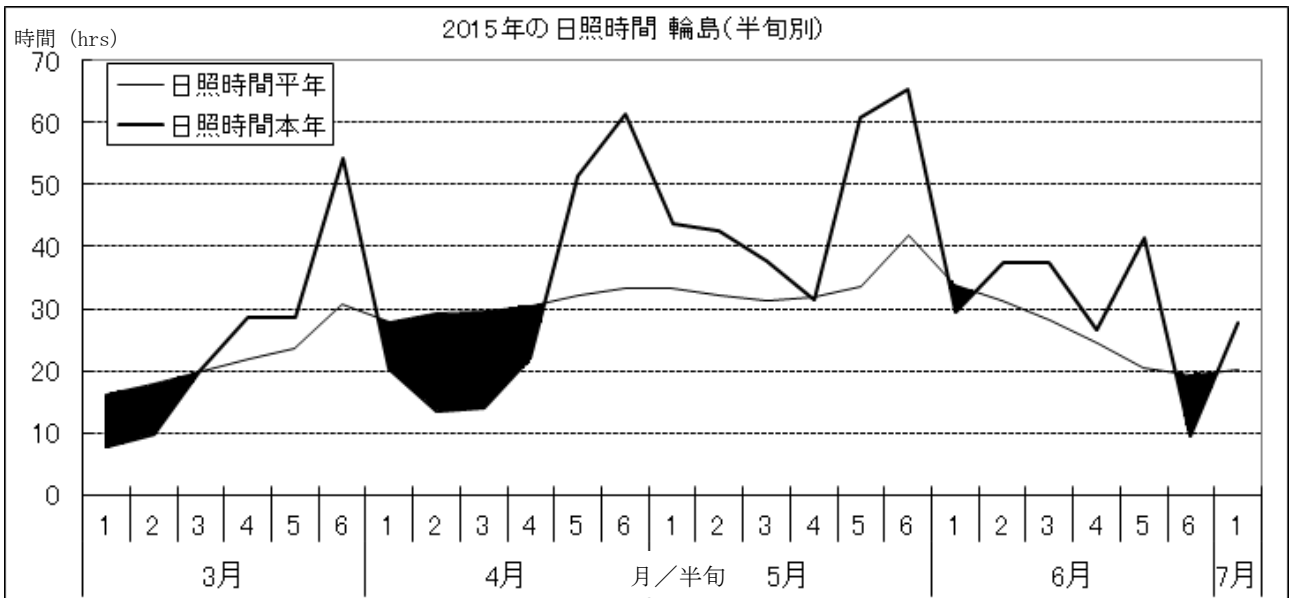
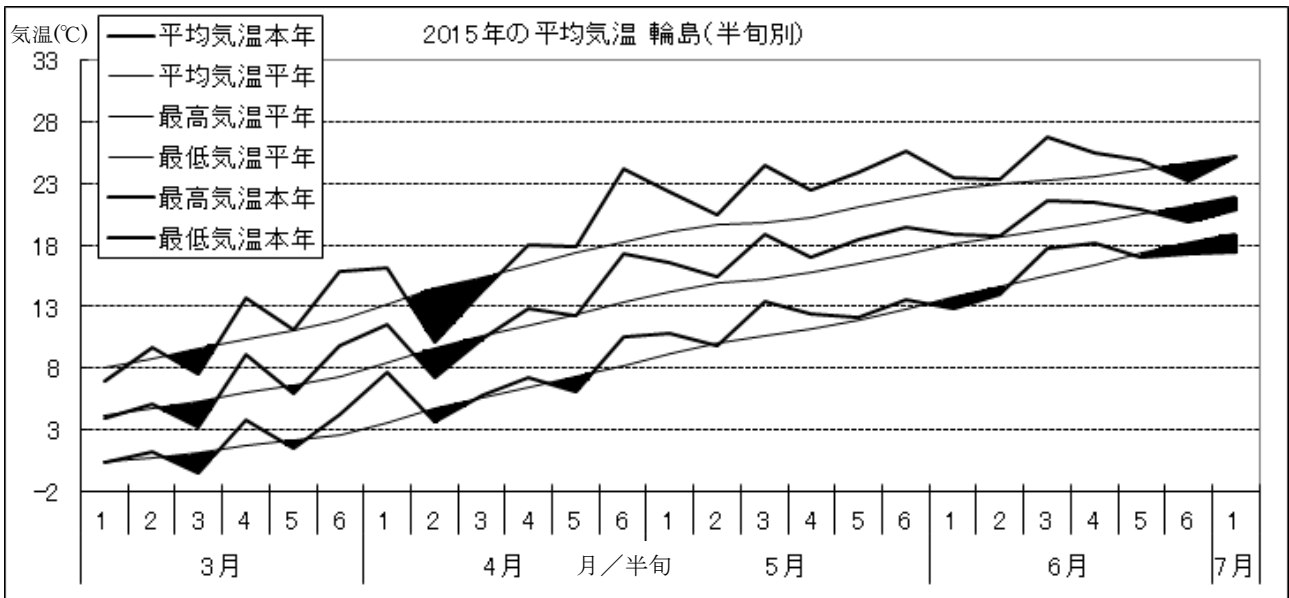


気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い